



発行日：令和8年3月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第68回川部会WGを開催しました！

第68回川部会WGは、安城市と刈谷市が取り組んでいる水田貯留事業の取り組みについて情報共有し、意見交換したほか、矢作川流域の古い写真の収集・整理、流域内で活動している団体について情報共有を行いました。

日時：令和8年1月20日（火）14:00～16:00

会議場所：豊田市 崇化館交流館（視聴覚室）

参加者：20名（内オンライン参加1名） ※事務局を含む



### ◆主な会議内容

#### 1. 安城市と刈谷市の水田貯留事業の紹介



安城市の小木曾氏と刈谷市の藤下氏より、水田貯留事業の取り組みについてご紹介を頂きました。

[安城市]

市民、事業者及び行政が協働して取り組むべき雨水対策の方向性を示した雨水マスタープランを策定しており、その中で雨を貯めるという観点から水田貯留事業に注力しています。水田貯留を始めたきっかけとしては、ハード対策の進捗が限定的である中で、本市に多く存在する田んぼを有効活用できないかという発想に基づいています。より災害に強いまちを実現するためには、水田貯留事業に対する市民及び事業者の皆様の理解を得ることが重要です。

[刈谷市]

平成27年度に刈谷市雨水対策マスタープランを策定し、浸水被害の解消を図るため、河川施設、下水施設、流出抑制施設等の整備を行い、治水事業に取り組んでいます。その中でも費用対効果が高い水田貯留事業を令和4年度から積極的に実施しています。水田貯留のメリットとして、事業費が低いことに加えて、水田に溜まった雨水をゆっくりと排水することで排水路や河川への負担を抑えることができます。また、水田貯留事業の課題として、地権者と話すまでに労力がかかる、耕作者へのメリットが少なく同意が得られない、調整板を運用しているかのチェックができていないなどが挙げられます。

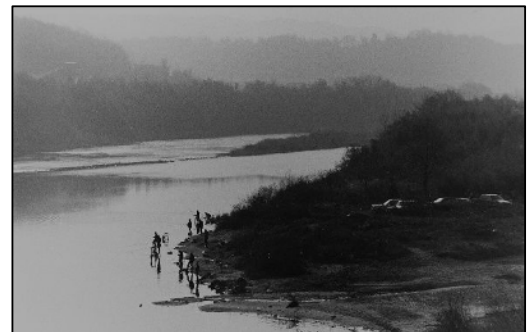
#### 2. 矢作川流域の古い写真



第16期の活動目標の一つである過去の矢作川の写真収集について、矢作川研究所より写真を提供していただきました。川の様子だけでなく、当時の住民が川で遊んでいる写真など、幅広い時期・内容の写真を収集することができました。

収集した写真のうち、場所や年代が特定できるものと航空写真を組み合わせることで、河川整備前後の変化、河床の様子、樹木繁茂の変化を可視化できるという意見が挙がりました。

さらに、収集した写真の活用方法やPT（プロジェクトチーム）の設置の必要性について意見が挙がりました。



矢作川右岸「波岩」付近の写真(s50) 出典：矢作川研究所 HP

#### 3. 矢作川流域内で活動する団体について



懇談会に登録されている市民団体や関係機関の整理を実施しました。また、山部会が中心で行っている担い手づくり事例集で取材を行った団体についても、参加者に情報共有しました。川部会への参加を促進するために、周囲の団体に対して積極的に声掛けしていくことを呼びかけました。

## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●水田貯留について

- ・安城市全体の水田総面積に対して、水田貯留を実施している面積の割合はどの程度か（鈴木）
  - ▶ 市全体の水田に対し、約5%で整備済みである。浸水被害の多い市街地の上流側にある田んぼで進めている。（小木曾）
- ・水田貯留の工事は誰が実施するのか。また、具体的にどの部分を工事するのか（光岡）
  - ▶ 地域によると思うが、安城市の場合は行政が工事を行っている。排水マス流量調整方式の場合は、既設の排水マスを水田貯留用の柵に入れ替える工事を行う。（小木曾）
- ・大雨が予想されるときに田んぼの水を抜く（落水）という考えはあるのか。（境）
  - ▶ 農家の負担になるため、安城市では実施していない。（小木曾）
  - ▶ 刈谷市も同様に実施していない。（藤下）
- ・年中水を保水している田んぼはどのくらいあるのか。（鬼頭）
  - ▶ 刈谷市では、大豆や麦などの転作が行われているため、年中水を貯めている田んぼはあまりない。（金原）
- ・調整板の仕様はどのようなものなのか。（事務局）
  - ▶ 刈谷市では、田んぼの水を張る高さより5センチ高く設定しないといけないため、全部オーダーメイドで作成している。（金原）
  - ▶ 安城市は、田んぼの高さを確認したうえで、製品規格である5センチ単位の調整板を一括で発注している。（小木曾）
- ・農地の保全をマスタープランで謳っている中で、工業用地や物流倉庫への転用が進んでいるのが問題と考えている。農地がダム機能を有している。（都築）
- ・日本のデンマークと呼ばれている安城市ですら田んぼの維持が難しくなっている。全国でも同じような状況であり、どのようにして田んぼを維持していくかが最も重要である。（近藤）
  - ▶ 農地の多面的機能（保水機能、防災教育等）の価値を市民に発信することが重要と考える。（中村座長）
  - ▶ 豊明市土木課に置いてあるミニチュアの水田貯留モデルを参考に、刈谷市でも携帯可能な小型版を製作し、防災イベントで視覚的に体験できる取り組みを進める計画である。（金原）
- ・同意が得られない理由の一つである流出調整板の維持管理は、どの程度手間があるか。（中村座長）
  - ▶ そこまで大きな手間ではないが、作業が増えることに対するメリットが少ないことが問題と思われる。（小木曾）
  - ▶ 同意を得られるように説明等を工夫していく必要がある。（金原）
- ・刈谷市としては、市民の方々が自主的かつ協働的に水田貯留事業に取り組んで頂けるよう働きかけていきたい。（金原）

### ●矢作川流域の古い写真について

- ・矢作川研究所から矢作川流域の古い写真を提供していただいた。年代や場所等の情報が記載してある写真を抽出し、リスト化した。（事務局補佐）
- ・愛知県が令和4年に開催した川づくり検討会で幅広い年代の空中写真が載っていた。（北井）
- ・矢作川を渡る名鉄電車の写真をまとめている本に矢作川が映っている。（鈴木）
  - ▶ 地理院地図等の航空写真と古い写真を組み合わせることで当時の河床などの様子が可視化できると考える。（境）
- ・矢作川研究所が2000年頃に当時と20年前の比較を行っている。今年にもう一度撮影を行えば、3時代で川の比較を行うことができる。（中村座長）
- ・PT（プロジェクトチーム）を設置し、写真の活用方法の議論や写真の整理を行っていくことが重要であると考えている。（近藤）
  - ▶ 5~6月を目途に写真の整理を進めていきたい。（中村座長）



### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課 TEL 0532(48)8107

\*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

